

研究課題名	造血幹細胞移植関連脂肪萎縮症候群の疫学調査研究
研究責任者名	昭和大学医学部小児科学講座 安達昌功
研究期間	年 月(許可日) ~ 2027年12月
対象者	造血幹細胞移植を受けられた方で、2010年1月から2027年3月の間に造血幹細胞移植関連脂肪萎縮症を発症した患者さん
意義・目的	脂肪萎縮症候群は、全身または一部の脂肪が萎縮し、重度のインスリン抵抗性糖尿病、脂肪肝や高脂血症などを合併する希少な疾患です。日本では2013年3月より脂肪萎縮症の治療としてレプチン治療(メトレプチン)が承認されています。本疾患は、先天性に発症することもあります。近年では、造血幹細胞移植後を受けた方が、のちに部分性脂肪萎縮症を発症しており、難治性のインスリン抵抗性糖尿病や高脂血症がレプチン治療により改善したケースが報告されています。発症の原因は、化学療法や放射線療法、移植片宿主病(GVHD)などが推測されていますが、明確な発症機序、発症リスクや治療法などは不明です。本研究は、造血幹細胞移植を受けられた方のうち、脂肪萎縮症を発症している方がどの程度おられるということを調査し、その方々の臨床的特徴を分析し、より良い診断ガイドラインを策定することを目的としています。この研究は、のちに造血幹細胞移植を受けられた方で脂肪萎縮症を発症した方の、診療ガイドラインの作成や新たな治療の開発につながると考えています。
方法	該当する患者さんの病歴・家族歴・服薬歴、血圧、身長、体重、body mass、臍周囲腹囲、血液検査所見(糖代謝指標、脂質代謝指標、脂肪肝関連指標、レプチン値、アディポネクチン値)、また体組成(体脂肪量・臍レベル内臓脂肪面積・DEXAでの体組成)などの情報を、調査票にしたがって診療録から収集します。各機関において、診療録から氏名、住所等の個人が識別できる情報を削除し、誰の情報か分からないよう加工した後に、Web入力により広島大学病院へ提供した後、まとめたデータを広島大学病院と昭和大学病院で共有し、共同で解析を行います。試料や情報の利用または提供開始予定日は実施許可日とします。
研究実施体制	<p>【研究代表機関】 広島大学大学院医系科学研究科小児科学 研究責任者：教授 岡田 賢 機関の長：田中 純子</p> <p>【共同研究機関】 昭和大学病院 小児科 研究責任者：安達 昌功 機関の長： 久光 正</p> <p>東京医科歯科大学病院 小児科 研究責任者：鹿島田 健一 機関の長：藤井 靖久</p> <p>奈良県立医科大学 小児科 研究責任者：長谷川 真理 機関の長：細井 裕司</p> <p>北海道大学病院 小児科 研究責任者：中村 明枝 機関の長：渥美 達也</p>

大阪市立総合医療センター 内分泌内科 研究責任者： 金本 巨哲
機関の長： 西口 幸雄

【試料・情報の提供機関】

新潟大学医歯学総合病院 小児科 責任者 長崎 啓祐
機関の長：富田 善彦

大阪母子医療センター 小児科 責任者 川井 正信
機関の長：光田 信明

札幌医科大学病院 小児科 責任者 石井 玲
機関の長：土橋 和文

慶應義塾大学 小児科 責任者 石井 智弘
機関の長：伊藤 公平

トヨタ記念病院 内分泌・糖尿病内科 篠田 純治
機関の長：岩瀬 三紀

試料・情報の管理責任者

広島大学大学院医系科学研究科小児科学 教授 岡田 賢一

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

研究責任者：昭和大学医学部小児科 安達 昌功

〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8

TEL：03(3784)8565